



チーム嶋村 ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

第6号 2022年12月発行



親愛なる会長のみなさん

こんにちは。2022年も12月、残りひと月となりました。お元気でしょうか？

本年度のご自身の会長テーマやクラブターゲットの再確認をお願いします。ロータリー賞に登録されたクラブの会長のみなさんは、進捗状況の確認もお願いします。

1. 12月は疾病予防と治療月間です

ロータリーの代表的な「疾病予防と治療」といえば、「ポリオ根絶」です。1985年、ロータリーはポリオプラス・プログラムを開始しました。ポリオ根絶は国際ロータリーの最優先事項であり（ロータリー章典 5.030）、ポリオプラス・プログラムはロータリー組織全体のプログラムです（ロータリー章典 36.070）。ポリオプラス・プログラムが成功裏に完了するまで、いかなる他の組織全体のプロジェクトも検討されません（ロータリー章典 40.040.1）



本年度はみなさんのご協力により、多くのロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブ、そして、ロータリーファミリーと一緒に、当地区で初めてとなる「世界ポリオデー2580」を開催していただきました。本年度の地区運営方針④「ポリオの根絶は世界平和の道標」を形にすることができました。心より感謝申し上げます。「世界ポリオデー2580」の街頭募金活動は、ポリオ根絶のためだけでなく、ロータリーの地域における公共イメージ向上、さらにクラブの活性化にもなります（世界ポリオデー

チーム嶋村 ガバナー月信

ー2580のレポートと、今月号の鼎談「ポリオ根絶がロータリアンとしてのスイッチを入れる」があります)。

参加型の奉仕活動を今後展開する上でも、「元気なクラブづくり」のヒントになったのではないのでしょうか？ ポリオ根絶への取組みはさまざまな形で行動できます。たとえば、END POLIO NOWのTシャツ(赤シャツ)を着て、ポリオ根絶チャリティーゴルフコンペの開催はいかがでしょうか？ ロータリアン一人ひとりのポリオ根絶への認識を高めるためにも、新しいチャレンジに楽しくトライしていただきたいと思います。

2. 感謝のガバナー公式訪問

おかげさまで、11月末までに全70クラブ中、65クラブのガバナー公式訪問を実施しました。7月14日、東京田無RCからスタートし、12月22日、那覇北RCでゴールする予定です。会長のみなさんには、例年と異なったガバナー公式訪問のスタイルに、戸惑いもあったと思われそうですが、快くお迎えいただきましたことに心より感謝申し上げます。

ガバナー補佐による事前のクラブ協議会を経ることにより、ガバナー公式訪問の際の会長幹事懇談会では、じっくりと対話をすることができました。会長のみなさんの会長テーマを自らの言葉で語る姿に、私はいつも感激しながら聴き入っています。クラブにはそれぞれの歴史や文化、そして課題があります。その積み重ねの中での会長の思いは、責任感と共に格別なものであると感じています。その思いを受け止めて、卓話をさせていただいています。

さらに、当地区で初めての試みとなるガバナー公式訪問フォーラムを、各クラブのご検討のもと、開催いただいています。私がファシリテーターや会員のみなさんからの質問の回答者になることもあります。会員のみなさんの声に耳を傾け、一人ひとりの表情を見ながら対話させていただいています。ガバナー公式訪問フォーラムはクラブごとさまざまな形式で行われますが、終了後、会長のみなさんのほっとした表情と、出席いただいた会員のみなさんの充実した笑顔を見ていると感謝の気持ちでいっぱいになります。

ガバナー公式訪問フォーラムを経て、新しい方向性を見出したクラブもあります。クラブの課題や会長の悩みに焦点を当てた結果です。また、ガバナー補佐のみなさんに、ガバナー公式訪問後のクラブの様子を聞いてみると、「クラブに良い変化が出てきています」という回答もあります。たいへん嬉しいことです。クラブ会長のみなさんには以前より「クラブコミュニケーションの大切さ」をお伝えしてきました。今後も「対話から実践へ」を繰り返しながら、「元気なクラブづくり」に邁進して欲しいと願っています。

3. ロータリーを理解してもらうには

本年度は、例年と異なり年度前半に地区大会を開催しました。会長のみなさまからは、「地区大会は終わり、ガバナー公式訪問も実施したのでひと安心」との声も聞かれます。しかし、残り7か月をクラブ会長として、いかに努力をするかどうかで、自身の会長年度の評価が変わってきます。本年度後半に「元気なクラブづくり」ができるかどうかは、会長のみなさんのリーダーシップにかかっています。今後も地区の企画する「元気なクラブづくり」のためのさまざまな行事があります。多くの会員と一緒にご参加いただきたいと思います。また、他のクラブの奉仕活動にも足を運んでいただきたいと思います(地区社会奉仕部門が毎月発行している「社会奉仕部門通信」をご活用いただくこともできます)。そこには、奉仕活動のため

の貴重なヒント・アイデアと素晴らしい出会いがあります。

入会候補のみなさんと参加型の奉仕活動にご一緒してみませんか？ ロータリーの奉仕活動は、ロータリーのストーリーを伝えることができます。新しい仲間（入会候補のみなさん）にロータリーを理解してもらうには最適な機会です。

奉仕活動を楽しみ、笑顔で、良い汗を一緒にかく時間を持ちましょう。会長のみなさんの新たな一歩が大きな前進につながります。

4. ロータリーは人を育てる場です

本年度の地区運営方針③として「「ロータリーは人を育て向上させる場」の認識を高め、会員基盤の向上を図り、会員増強に結びましょう」を掲げています。ロータリーの大きな魅力の一つに、素晴らしい人との出会い、交流、親睦が挙げられます。人と人とのつながりを通じて、地域社会に根差した奉仕活動やダイナミックな国際奉仕活動も挙げられますが、ロータリーは自らを磨き上げる場、改善の機会であることも大切です。

そのために、ロータリーの理念を学ぶプログラムを提供します。そのプログラムの一つが、入会二年目未満のメンバーを対象にしたハローRotary（第1クールは実施済み）です。集中型の研修です（オンライン開催）。ハローRotaryの第1クールを実施したところ、クラブの中には新入会員オリエンテーションが十分に進んでいないことがわかりました。ロータリーの基本に触れる研修の大切さと実施の難しさを痛感しました。12月から始まる第2クールにおいても、受講いただいたみなさんに、ロータリーの素晴らしい理念に触れていただき、一人でも多くの新入会員がロータリーに関心を持てるようにします（地区研修委員会ハローRotaryプログラムからの詳細ご案内もございます）。

5. メルボルン国際大会の登録はお済みですか？

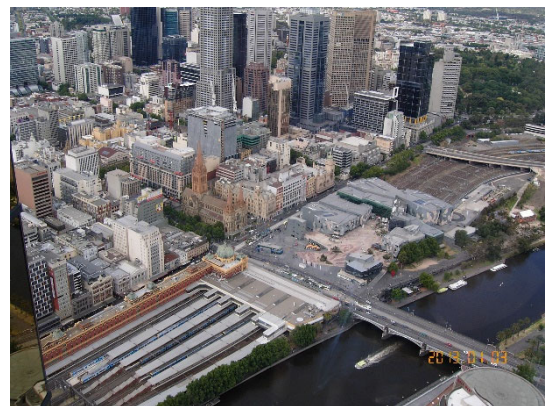
本年度の国際大会は、オーストラリア第二の都市メルボルンで、2023年5月27日から31日までの日程です。大会テーマは「イマジン ネクスト」です。5月28日の朝、日本人朝食会、同日の夜、地区ナイトが開催されます。国際大会の登録料（日本人朝食会、地区ナイトなどは別途お支払いとなります）は、12月15日までは475米ドル、12月16日から2023年3月31日までは575米ドル、それ以降は675米ドルとなります。当地区の登録者数の目標は280名です。

国際大会の魅力について、RI 会長エレクトのゴードン・マッキナリーは語っています。

「国際大会に出席すると、ロータリーでの奉仕への意欲が高まります。大会での経験が私のエネルギー源です。ロータリーという団体がいかに大きいかも実感できます」

さまざまな国の人たちとの交流を通じ、奉仕活動の新しいヒント・アイデアを得ることができます。ロータリーの真の国際性を実感し、忘れられない思い出が生まれるはずです。

多くのみなさんとメルボルン国際大会で会えることを、楽しみにしています。



私のロータリーモーメント（心に残るロータリー体験）⑥：

「国際大会の歓声」

私の会長年度（2016-17 年度）に開催されたアトランタ国際大会。本会議はロータリー財団 100 周年を祝い、スピーカーにビル・ゲイツも登場し、たいへん盛り上がりました。その際に、地区大会で特別講演をしていただいた関場慶博さんもインドの NID（全国一斉ワクチン投与日）の活動を紹介されました。歓声の中、本会議場の大画面にインドでワクチン投与を行う自分の姿が映し出された瞬間が、国際大会における私のロータリーモーメントの一つです。あの時の驚きは忘れられません。



2022年12月1日

国際ロータリー第2580地区ガバナー 嶋村文男

※ガバナーへのメッセージをお待ちしています→ info@motoffice.jp

国際ロータリー理事選考委員会の開催報告

執筆：第2580地区代表委員 鈴木喬

9月26日（月）、ホテル・ニューグランド（横浜）において「国際ロータリー2024-26年度理事」選考委員会が開催されました。当該年度は第2ゾーン（※）より選出することになっています。

選考は、13地区代表委員（パストガバナー）の討議に始まり、立候補者の面接で約1時間の質疑応答を行い、立候補者の退室後、代表委員の投票により満場一致で決定しました。

国際ロータリー事務総長からも各ロータリークラブ会長へメール連絡があったとおり、内定者は水野功さん（第2750地区パストガバナー、東京飛火野ロータリークラブ）です。

資格のあるほかのロータリアンが対抗候補者として12月1日までに正規の手続きで提出されない限り、同日、水野功さんが第2ゾーンの理事ノミネーとして正式決定することとなります。

以上、ご報告します。

※第2ゾーンとは、第2570地区（埼玉西北部）、第2580地区（東京北部・沖縄）、第2590地区（横浜・川崎）、第2600地区（長野）、第2610（石川・富山）、第2620地区（静岡・山梨）、第2750地区（東京南部・パシフィックベイスン）、第2760地区（愛知）、第2770地区（埼玉南東部）、第2780地区（横浜・川崎を除く神奈川）、第2790地区（千葉）、第2820地区（茨城）、第2840地区（群馬）の13地区で構成されています。

チーム嶋村 ガバナー月信

「世界ポリオデー2580」アルバム

(カッコ内は開催場所を記載しています)



東京練馬中央 RC
(阿佐ヶ谷ジャズストリート)



東京葛飾 RC
(帝釈天)



東京葛飾東 RC
(帝釈天)



東京ベイ RC
(錦糸町駅)



東京江戸川中央 RC
(錦糸町駅)



東京臨海西 RC
(錦糸町駅)



東京東久留米 RC
(東久留米駅など)



那覇 RC
(小禄ジャスコなど)



石垣 RC
(メイクマン石垣店など)



宜野湾 RC、那覇東 RC、浦添 RC
那覇南 RC
(国際通り、パレット久茂地など)



名護 RC
(イオン名護店)

主に10月23日に実施したものを掲載しています。ポリオ根絶の周知と公共イメージ向上が写真から見てとれます。掲載以外にも実施したクラブがあります。地区ガバナー月信編集委員会でFacebookから収集できたものだけを掲載しています(各掲載許可取得済)。

チーム嶋村 ガバナー月信

クラブからのロータリー活動の情報提供

「フラフェス in 浅草神社」

執筆：東京浅草中央ロータリークラブ

10月22日、23日、浅草神社の神楽殿において、福島県立好間高等学校フラ同好会 OG にフラダンスの機会を提供しました。地元の方々だけでなく、全国・全世界から訪れる観光客の方々にご覧になっていただきました。フラフェス in 浅草神社は、2013年以降、東日本大震災被災地への支援として継続しています。本年度は世界ポリオデー2580の街頭募金活動も行いました。

伊石佳高会長からのコメント：

3年ぶりに開催されたフラフェス in 浅草でしたが、観客や来場者の多さに驚かされました。同時開催しました世界ポリオデー2580の募金活動、浅草神社境内の清掃活動（環境保全活動）も滞り無く行うことができました。すべてご参加いただいたみなさまのおかげです。本当にありがとうございました。



チーム嶋村ガバナー月信編集委員会レポート

「東京東江戸川 RC によるポリオ根絶募金活動」

執筆：地区幹事 永井正己

10月23日（日）、午後1時30分から、JR小岩駅南口で、東京東江戸川 RC とご家族、東京東江戸川 RAC のローターアクター、愛国学園 IAC のインターアクターの総勢20名で「世界ポリオデー2580募金活動」を行いました。

募金活動を始める前に、唐澤東京東江戸川 RC 会長より本日のポリオ根絶の募金活動の趣旨の説明がありました。その後、駅前で数班に分かれて、通行している人やバスを待つ人らに募金活動を呼びかけました。インターアクターも慣れない活動のため、最初は素通りする人に小さな声しかでませんでした。しかし、ローターアクターと一緒に呼びかけをしていくと、一人また一人とお話しを聞き、募金してくれるようになり、徐々に積極的に呼びかけができるようになりました。

1時間30分ほどでしたが、世界のポリオ根絶に向けて、ロータリーファミリーが集まって一緒に活動することができました。その充実感を得るだけでなく、募金活動を通して地域社会にロータリーの活動を発信し、また、貴重な経験を周囲に伝えることもできました。ローターアクターやインターアクターだけでなく、自らも次の活動につなげる機会を得ることができました。



チーム嶋村 ガバナー月信

「世界ポリオデー2580」在京チームの活動報告

執筆：地区公共イメージ委員会 委員長 飯村雅洋



10月23日とその前後に、分区・グループ・クラブの各チームで、「ポリオ根絶」を市民に呼びかけ募金活動を実施しました。

実施チームは、中央分区域北グループ、東京荒川 RC、東京上野 RC、東京浅草中央 RC、東京江戸川 RC、東京東江戸川 RC、東分区大澤ガバナー補佐グループ、東分区高橋ガバナー補佐グループ、東分区橋本ガバナー補佐グループ、東京東久留米 RC、武蔵野分区、東京東村山 RC、東京福生 RC、東京東大和 RC、東京武蔵村山 RC とその協力者で総勢 635 名が参加されました。

募金金額総計は 2,942,558 円と多額のご協力をしていただき、感謝申し上げます。

金額もさることながら、最も大きな成果は、ロータリアン、ロータリーファミリー、ローターアクター、インターアクター、米山奨学生、学友の多くの方々が手を携え、大きな目的である「ポリオ根絶」に向かって突き進んだことだと考えております。この経験が今後の各クラブの活動に大きく役立つのではないのでしょうか。

10月24日には、東武ホテルレバンド東京で、1960年に日本で5,000人を超えるポリオ罹患者が出た惨状の映画「われ一粒の麦なれど」の上映会、その後に募金活動情景写真を観ながら、食事をしていただきました。地区内外から130名がご参加をしていただき、多くの参加者が感動されました。受付での募金箱には104,705円もの募金をしていただきました。

みなさまのご協力で大きな成果を得られ、公共イメージに多大なる貢献ができたことと認識しております。

誠にありがとうございました。

沖縄分区における世界ポリオデー2580 レポート 執筆：地区公共イメージ部門 部門長 新城恵子

4月「地区研修協議会終了時の状況」：沖縄分区のクラブ間にはポリオ根絶の認識に大きな差がありました。ポリオ根絶卓話を全11クラブで実施した上で、各クラブはどうか決めていただくこととしました。

7、8月「クラブの活動方針決定」：結果は、全クラブ、街頭募金参加となりました。沖縄分区としてゴール設定を「ポリオに対する認識の向上・社会への広報を担う一斉街頭募金活動」としました。

8月「合意形成」：情報発信、意見交換、方針決定はZoomとLINEで行いました。クラブが主体、地区は支援です。資料やデータを共有し、活用のための協力を行いました。

9月「新聞広告の検討会議開催」：新聞広告掲載の声が上がりました。一方、逆の意向もあり検討会議を開催しました。意外にも協賛法人数は1週間で当初の紙面枠を全面枠へ拡大変更する嬉しい展開となりました。なお、一斉街頭募金活動の直前に、クラブの顔である会長の笑顔も新聞広告に掲載したことと、ポリオ根絶に向けた鳴村ガバナーと林那覇南 RC 会長による論壇が新聞に掲載されたことは、公共イメージ向上につながったとの声がありました。その他、新聞、ラジオ、テレビ、SNS などへの掲載もロータリアンが動きました。

10月「世界ポリオデー2580「一斉街頭募金活動」開催」：沖縄県内8か所で開催し、地域とつながることができました。ポリオ根絶Tシャツ（赤シャツ）を着てねり歩くとともに、各クラブが広報活動を行いました。結果として、参加人数は464名、募金額は111万6740円となりました。

参加したロータリアンからのコメントを紹介します。

「一生懸命募金している子どもたちを見て感動！」

「多くの方が足を止めて下さり、すごかったと声掛けされ、手応えを感じました。良い経験となり感謝」

「感動、感謝に接し、今後のロータリー活動の糧となった」

「11クラブのポリオ根絶への想いが一つになり歴史に残る素晴らしい1日になった」

「予想を超える募金が集まり、貢献できたと会員一同達成感！！」

新聞広告は賛助法人82社の支援金で全面広告となりました。ロータリーを知ってもらおうという意味の価値がありました。一斉街頭募金活動の際、見知らぬ人から「大成功でしたね！」と笑顔でお声掛けをいただきました。今後もこのような人にロータリーの素敵なイメージを伝えていきたいです。

ポリオ(小児マヒ)のない世界まであと少し！
国際ロータリー2580沖縄分区一斉街頭募金
Rotary 沖縄分区 沖縄全ロータリークラブが力を合わせ IMAGINE ROTARY
ポリオに対する認識の向上・募金活動・社会への広報活動をしています



チーム鳴村 ガバナー月信

新入会者オリエンテーション「ハローRotary」

執筆：地区研修委員会ハローRotary プログラム リーダー 田中久光

当地区初めての試みである新入会者オリエンテーション「ハローRotary」第1クールが10月27日から6日間行われました。入会2年未満の方が対象のこの研修では、ロータリーの「理念」「活動」「組織と役割」という視点からアプローチを試みます。

多くの新入会のみなさんは、ロータリーについて十分な説明を受けているとは言えません。当然ロータリーの知識もほとんどないという方が大勢います。ポール・ハリスや米山梅吉を知らない、聞いたこともないという方がかなりいるのには驚きました。しかし、ご縁でロータリークラブに入会されたわけです。ロータリーに興味、関心を持っていただき、充実し楽しいロータリーライフを送っていただきたいです。

ハローRotaryは嶋村文男ガバナーの思い、地区研修委員長の松坂順一パストガバナーの監修のもと、第1クールを実施しました。第2クールでは、現在、ロータリーが目指していることを紹介します。また、自らMy Rotaryに登録し、クラブで活動していくきっかけになればとセッティングされています。

第1クールは仕事などで参加ができなかった入会2年未満の方も第2クールからの参加を歓迎します。ハローRotaryはオンラインの開催ではありますが、ロータリアン同士の「初めまして」で始まります。会長のみなさま、ぜひ新入会者へのご案内をお願いします。

なお、今後の日程は次のとおりです。第2クールは12月1日から7日、第3クールは2023年1月26日から2月1日を予定しています。



本年度の RLI 実施に向けて

執筆：地区 RLI ファシリテーター委員会 委員長 加藤幸男

RLI（ロータリーリーダーシップ研究会）は、ロータリークラブの数年内に会長となる者のリーダーシップの潜在的な指導力を開発するために教育の機会を提供するプログラムです。RLI に携わることで、熱狂的、創造的、そしてひたむきなロータリアンにすることを期待するものです。会長ノミニーにとっては、ロータリーの知識とリーダーシップのスキルを得るためにあります。また、RLI は、世界各地の地区に組織された会員地区の多地区合同、草の根レベルの指導力育成プログラムです。このプログラムは RI によって推奨されています。

当地区の RLI 活動は 2018-19 年度に発足しました。当初の運営目標とした 60 名の DL（ディスカッション・リーダー）資格取得者の養成も達成し、90 名を超える DL 資格取得者という成果が得られました。

本年度は、RLI 受講者を本来の目的のとおり、クラブリーダー養成のために、幹事もしくは幹事エレクトに対象を絞りました。私たちは、RLI を通じて得た経験が、将来のクラブリーダーにより「クラブコミュニケーションの活性化」をもたらすとともに、「ファシリテーション」がクラブのみならずクラブの関係するコミュニティで発揮されることを期待しています。

本年度の RLI スケジュールは次のとおりです。各パートの受講間隔が開かないよう、2 日ごと 2 回の近接した日程として実施します。受講間隔を空けないことにより、プログラムの連続性が保たれます。

RLI スケジュール（登録料など詳細は未定です。ご案内は後日送付します）：

在京会場：青森大学 東京キャンパス（東京都江戸川区）

2023 年 1 月 21 日（土）、22 日（日） RLI Part1、2

2023 年 3 月 18 日（土）、19 日（日） RLI Part3、卒後コース

沖縄分区会場：沖縄ているる（沖縄県那覇市）

2023 年 2 月 4 日（土）、5 日（日） RLI Part1、2

2023 年 3 月 25 日（土）、26 日（日） RLI Part3、卒後コース

「奉仕の理念」を再認識、ロータリーの未来への可能性に挑戦しよう

第5回（最終回）「奉仕の理念」を未来へつなぐ

執筆：地区職業奉仕部門 部門長 藤掛靖元

会長のみなさま、こんにちは。今回まで「奉仕の理念」の再認識をテーマに、その意味と成り立ちについて述べてまいりました。「ideal of service (奉仕の理念)」という言葉が初めて登場したのは、1915年、サンフランシスコ大会の報告書とされています。その後、1918年、全米ロータリークラブ連合会の綱領に採択、その文言は「すべての尊敬すべき事業の基礎としての ideal of service・・・」です。これは現在のロータリーの目的「意義ある事業の基礎として奉仕の理念・・・」につながるもので、「奉仕の理念」の最初の発想は職業奉仕理念であったと推察されます。その後、「奉仕の理念」は職業だけでなく日常生活、社会生活などすべてに適用するロータリーの基本理念として決議 23-34 に明文化されます。

大切なことは「奉仕の理念」を実践に移すことです。この実践に移すことが、決議 23-34 第4項に示され、現在のロータリーの目的第3、標準クラブ定款第6条2（職業奉仕）につながっていきます。実践に移すことで自分自身を、事業を、業界を、そして社会全体を向上に導く道が見えて来ます。企業経営に視点を移すと、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営み、その利益は従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分する、それが継続的に利益を得る道であり、業界全体の職業倫理を向上させることにつながっていきます。何と今から 100 年以上も前に修正資本主義に近い考え方を先取りしたことに驚かされます。だからこそ「奉仕の理念」は提唱から 100 年以上たった今でも、我々のビジネスや生き方に対し多くの示唆を与えてくれるのです。

次に大切なことは「奉仕の理念」を次の世代につないでいくことです。「奉仕の理念」は現代社会のみならず未来の社会に対し普遍的な力をもった理念と言えます。私たちは次の世代の利益になるように努める必要があります。そのためにも未来の社会を担う次の世代にこのロータリーの「奉仕の理念」を伝えて行かなければなりません。

今、世界は多難な道を進んでいます。戦火は止むことなく多くの命が奪われ続けています。本年8月6日、広島での平和記念式典で小学校6年生が「平和への誓い」で述べた言葉が心に響きました。

「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです」

まさに利己と利他の調和、ロータリーの奉仕の心ではないでしょうか。次の世代のために「奉仕の理念」をつなぐ重要性を感じます。

時代は変化しますが「奉仕の理念」は不変です。私たちが「奉仕の理念」を学び、携え、実践し、次の世代につなぐことで価値ある未来を創ることが出来ます。これを機会に、ぜひロータリーの基本理念である「奉仕の理念」を再認識していただき、これをご自身の人生に活かし、さらに次の世代につないでいただきたいことを願い、筆をおきます。

チーム嶋村 ガバナー月信

チーム嶋村「元気なクラブづくりのための鼎談」第7回： 「ポリオ根絶がロータリアンとしてのスイッチを入れる」

11月10日、嶋村文男ガバナーと、柳邦明さん（東京愛宕 RC。国際ロータリー第2750地区ロータリー財団委員会副委員長）、石川幸男さん（東京荒川 RC。地区公共イメージ委員会ポリオリーダー）とで「ポリオ根絶」の鼎談を行いました。いずれの方もインドのNID（全国一斉ワクチン投与日）に参加されたことがあります。インドのNIDでは、インドの街中でポリオワクチン一斉投与を周知するためのウォークラリー（パレード）を行った翌日、スラム街の子どもたちにポリオワクチンの経口投与を行います。柳邦明さんはインドでパン屋も経営されています。

今回の鼎談は、12月のロータリーの特別月間「疾病予防と治療月間」に合わせ、ロータリーの最優先課題であるポリオの根絶についてとなりました。嶋村ガバナー、柳さん、石川さんのいずれも、インドのNIDに参加し、ロータリアンとしてのスイッチが入りました。柳さんは「ロータリーとは何かをわからない」時に、インドのNIDに参加し、「ダイレクトな奉仕」を体験し、「ロータリーはすごいことをしていると気付く」ことができました。石川さんは自らが行動することにより、奉仕の充実感を得ることができました。「これが一番大きかった」とします。



また、石川さんの所属する東京荒川 RC は、10月23日、「あらかわ遊園世界ポリオデー2580」を主催しました。ポリオの会の方にステージでスピーチいただくとともに、地元中学生のマーチングバンドを先導とするパレード、そして、地元小学生とともに街頭募金活動などを行いました。「コロナ禍において、行動するということなかなかできませんでしたが」、「連帯感を持って、一致団結して進めることができました」とのことです。「元気なクラブづくり」にもつなげることができました。ロータリアン、ロータリーファミリーだけでなく、地元の区役所、保健所、警察署、消防署などにもご協力をいただくことができました。今後、保健所と一緒に荒川区内で何かできないかというきっかけになりました。「地域に根付くようなポリオ根絶へ向けての活動ができるようにしたい」とのことです。

上記とともに、第2750地区の公共イメージ活動「トレインジャックプロジェクト2021」（JR線にEND POLIO NOWの中吊り広告を掲載、丸の内でもウォークラリーを行うなど）、来年1月実施予定の「インドのNID」などについてもお話しがありました。

印象的なコメントは次のとおりです。

柳さん：ロータリーのことをぜんぜん知らなかったのですが、そのインドのNIDにいたのは、長く、真剣に活動されているロータリアンでした。その方々から、ロータリーとは何かを聴けたのもとても良かったです。なるほど、こういうことなのか。この方々のようにロータリー活動をしてみたいと思えたのはラッキーでした。

※ YouTube からご覧いただくこともできます（29分56秒）。下記 URL をクリック。

https://youtu.be/_8yf8ytEKic

チーム嶋村 ガバナー月信

目次：

1. 鼎談の趣旨とロータリアンとしてのスイッチ
2. ロータリーのポリオ根絶の取組みと世界ポリオデー2580
3. ポリオ根絶の歩み
4. ポリオ根絶への思いとこれからの展開

1. 鼎談の趣旨とロータリアンとしてのスイッチ

嶋村（敬称略。以下同じ）：12月のロータリーの特別月間は「疾病予防と治療月間」です。みなさんご存知のとおり、ロータリーの最優先課題はポリオの根絶です。第2750地区（東京南部・パシフィックベイソン）のポリオ根絶のオーソナリティである柳邦明さん、当地区の世界ポリオデー2580を推進いただいた、東京荒川RCの石川幸男さんの3人でお話しをしたいと思います。まずは、柳さんから自己紹介をお願いします。



柳：柳邦明です。第2750地区、東京愛宕RCの所属です。本年度は地区ロータリー財団副委員長と地区ロータリーカード推進委員長を拝命しています。よろしくお願いします。

嶋村：ありがとうございます。石川さん、お願いします。

石川：東京荒川RCに所属しています、石川幸男です。本年度、地区公共イメージ委員会のポリオデーチームのリーダーを務めています。過去には地区ポリオプラス委員長も務めたことがあります。本日は、よろしくお願いします。

嶋村：ありがとうございます。本日はENDO POLIO NOWのバッチを着けていただいています。ポリオ根絶との出会い、最初の印象のお話しをしていただけますでしょうか？柳さんはインドでビジネスもされていますので、そちらも含めてお話しもしていただけますでしょうか？

柳：東京愛宕RCは2013年設立です。設立して10年ぐらいです。スポンサークラブはありませんでした。当時のガバナーが特別代表となられて設立しました。会員全員、ロータリーとは何かをわからないままに運営していました。例会は朝に開催しています。なぜ、毎週8時に集まるのかの意義もわかりませんでした。たいへんなだけでした。2014年にはお休みしようかと考えていました。私はインドでパン屋を経営しています。出張した時に、ポリオのワクチン投与活動をしている日本人のグループがニューデリーに来ることをたまたま知りました。そういうロータリアンのチームがあることに驚きました。私はインド



チーム嶋村 ガバナー月信

で仕事をしていますが、出会うインド人は富裕層しかいませんでした。スラム街にいる人たちに出会う機会はありませんでした。インドをあまりわかっていない部分があることに気がきました。ぜひ参加したいと連絡をとりました。インドで直接ポリオワクチンの投与活動に参加しました。その時に、嶋村さんと初めてお会いしました。活動の中で、ワクチンを投与する子どもたちにたいへん驚きました。私の会う子どもたちはきれいな服を着て、きちんと教育も受けています。活動の場所はスラム街です。臭いがすごいです。子どもたちもお風呂にあまり入っていません。汚い、ほこりっぽいと一瞬思うほどです。しかし、生ワクチンを2滴、子どもの口に垂らします。この投与によりこの子どもがポリオに感染しなくなったと体験することができました。10人、20人と行くと、子どもたちを抱きしめていました。これで助かるのなら、すごいなと感じることができました。ダイレクトに奉仕をさせていただいたという体験です。まったく違うインドを知ることができました。強烈な印象として残り、ロータリーはすごいことをしていると気がきました。ただ例会に出るのではなく、ただご飯を食べるのではなく、ただ卓話を聞くのではない、本当に奉仕活動をしていることにわかりました。そこからポリオ根絶にコミットし、今に至っています。

嶋村：柳さんはインドのNID（全国一斉ワクチン投与日）で、スイッチが入ったのですね。

柳：ロータリーのことをぜんぜん知らなかったのですが、そのインドのNIDにいたのは、長く、真剣に活動されているロータリアンでした。その方々から、ロータリーとは何かを聴けたのもとても良かったです。なるほど、こういうことなのか。この方々のようにロータリー活動してみたいと思えたのはラッキーでした。

嶋村：素晴らしいですね。石川さん、ポリオ根絶との出会い、初めてのインドのNIDを教えてくださいませんか？

石川：インドのNIDに行ったきっかけは、2019年当時、地区ポリオプラス委員会に所属していたことです。私はポリオ根絶の活動は何もできていませんでした。せいぜい、クラブを回って卓話をさせていただく程度でした。これでポリオの根絶ができるのかと疑問を持っていました。インドのNIDがあることを知り、ぜひ参加してみたいと思いました。問い合わせをしたところ、参加できるとのことでした。急遽、参加しました。柳さんがお話ししたとおり、今までに見たことのない環境に行きました。自ら、2滴のワクチンを投与する活動をさせていただきました。「Take action」、自らが行動するという経験ができ、充実感がありました。自分が「何かを行っている」と感じるすることができました。これが一番大きかったです。何か行った時に何か実感がないと、これで正しかったのかと疑問を感じることもあります。インドのNID自体が素晴らしいこともありますが、何より私の喜びとなりました。それが自らの一大意義です。



嶋村：素晴らしいですね。3人とも、インドのNIDによりスイッチが入ったのがわかりました。ロータリー

チーム嶋村 ガバナー月信

一の最優先課題はポリオの根絶です。ロータリーのポリオ根絶の取組みを、柳さんからお話ししていただけますか？

2. ロータリーのポリオ根絶の取組みと世界ポリオデー2580

柳：1985年、ロータリーはポリオプラス・プログラムを開始しました。現在、37年目になります。1988年からGPEI（世界ポリオ根絶推進活動）が推進されています。ロータリーは、WHO、ユニセフ、CDC（米国疾病対策センター）とともに主要パートナー団体です。2000年代、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が入りました。国際的なチームをつくり、それが奏功しています。1985年当時、35万人の罹患者がいたとされていましたが、現時点29名となっています。しかし、昨年は6名でした。アフリカのマラウイ、モザンビークで罹患者が出ています。ニューヨーク州でも罹患者が出ました。10年ぶりです。ロンドンもポリオのウイルスが発見されました。コロナの影響によりワクチン接種率が下がって、集団免疫が落ちてきています。ポリオウイルスの拡がりが増えました。ワクチンをなるべく接種し、接種率を上げないと、罹患者がまた増えてしまいます。今年、パキスタンの罹患者がたいへん増えています。きちんとワクチン接種を行うことがとても重要です。このような活動へ、ロータリーが資金を提供しています。私たちの寄付がこの資金につながっています。ここまで来たら、あと一息です。この一息に資金がかかります。ロータリーがぜひ担っていくところです。

嶋村：そうですね。最後のテープを切るには、走り抜ける必要があります。本年度、本地区として初めて、世界ポリオデー2580を10月23日、24日に行いました。ポリオ根絶は世界平和の道標、ポリオ根絶活動を通じてクラブの活性化をはかりましょうとチームをつくりました。それがポリオデーチームです。そのリーダーが石川さんです。石川さんからどのような活動をしたかをお話しいただけますでしょうか？

石川：世界ポリオデー2580としては、ロータリーの最優先課題がポリオ根絶であることを認識いただくこと、クラブが率先して一般社会へ活動を周知すること、街頭募金活動によりクラブの活性化とロータリアンのロータリーモーメントにつなげることを意識して活動しました。私が所属する東京荒川RCは、10月23日、「あらかわ遊園世界ポリオデー2580」として、募金活動を行いました。自クラブ、他クラブのロータリアン、ローターアクター、米山学友、ロータリアンの関係者を集め、200名ぐらいにご協力いただきました。当日はたくさんの方々に来ていただき、あらかわ遊園の中を含めて2000名ぐらいとなりました。実施の内容としては、PR活動を重視しました。各町会にチラシを配布、また、掲示板にポスター貼っていただきました。荒川区報と、当日の東京新聞にも掲載いただきました。また、ケーブルテレビが当日取材、後日、放送をしていただきました。今回良かったことは、荒川区役所と一緒にできたことです。荒川区役所の方々からいろいろとご支援いただきました。荒川区の環境課や荒川保健所をご紹介いただきました。あらかわ遊園は荒川区の施設です。荒川区の施設で行うということで、荒川区長がパレードにご参加いただきました。荒川区の多くの関係者にご参加いただいたことが本当に素晴らしかったです。

嶋村：あらかわ遊園の観覧車のライトアップをしていただきました。私も10月19日の点灯式に行くことができました。本当に素晴らしかったです。私はクラブの活性化につなげてほしいとお願いしました。東京荒川RCは「あらかわ遊園世界ポリオデー2580」を通じて好ましい変化は生まれませんか？

チーム嶋村 ガバナー月信

石川：コロナ禍において、今までは行動するということがなかなかできませんでした。今回のイベントを行うということで、連帯感を持って、一致団結して進めることができました。これが一番大きかったです。

嶋村：みなさんにがんばっていただきました。実行委員会のみなさんが楽しそうにニコニコされていました。たいへん印象的です。石川さんのリーダーシップに感謝します。第 2750 地区は積極的に公共イメージ活動をしています。前年度はトレインジャックプロジェクト 2021 を行いました。私も参加しましたが、素晴らしかったです。柳さんから教えていただけますか？

柳：前年度ですが、第 2750 地区はトレインジャックプロジェクト 2021 を行いました（JR 線に END POLIO NOW の中吊り広告など）。近隣の第 2580 地区、埼玉、千葉、神奈川の地区が一緒になってです。協賛もいただきました。みなさんで、丸ビルから有楽町まで END POLIO NOW ウォークラリーも行いました。イメージはインドの NID です。ワクチン投与をアピールするためにインドの子どもたちとウォークラリーを行います。END POLIO NOW ウォークラリーでは、END POLIO NOW の赤い T シャツを着て、沿道の子どもたちに風船を手渡ししながら、ロータリーの活動をアピールしました。もちろんポリオ根絶も重要ですが、社会一般は「ロータリークラブは何を行っている団体なのか？」というところでしょう。おじいさんたちの集まりと誤解されている人たちも多いようです。実際には良い活動をしていること、奉仕活動をしていることをぜひ知ってほしいという思いから、みなさんで丸の内を歩きました。500 名以上がご参加されました。ロータリーのことをアピールできました。

嶋村：当地区は初めて、さまざまなエリア、クラブで世界ポリオデーを行いました。沖縄分区分は真っ赤に燃えました。地元の新聞にも広告を掲載しました。これが良い変化を生むことにつながれば良いと思っています。石川さん。映画「われ一粒の麦なれど」のお話しもしていただけますか？

3. ポリオ根絶の歩み

石川：「われ一粒の麦なれど」は 1960 年代の初め、日本全国でポリオ（小児麻痺）がまん延した時、一人の男性が立ち上がり、ポリオ根絶、ワクチン接種に向けて活動を始めるという内容です。当時の実態がわかるとともに、熱い思いが伝わってきます。10 月 24 日、世界ポリオデー 2580 の一環として上映しました。

嶋村：60 年前、日本にもそういう時代があったとみなさんに考えていただきたいです。世界の子どもたちがほんとうに安心して暮らせる、そういう世界をご覧になったみなさんが IMAGINE できる映画でした。石川さん、ありがとうございます。それぞれポリオ根絶への思いがあります。柳さん、どのような活動をしていきたいですか？

柳：日本において、1980 年、ポリオは根絶されました。日本では終わったようにお話しされています。確かに、ポリオの野生株は根絶されています。しかし、2010 年までポリオの生ワクチンを投与していま

した。これにより、ワクチン由来株のポリオに罹患した方々も数多くいます。嶋村さんも一緒されましたが、2015年、増上寺にてポリオプラス・プログラムのセミナーを開催しました。その時に、ポリオの会の方々に出会いました。1960年代、日本でもポリオが大流行した時に罹患した方々だけでなく、ワクチン由来株により罹患した方々があります。その最年少は中学2年生でした。その方々は、「ロータリーは野生株の根絶のことを言っている」とお話しされていました。野生株の根絶の後には、ワクチン由来株の根絶になるでしょう。ポリオ患者がすべて世界からいなくなることが、「初めてポリオのない世界です」というお話を聴いて、私は驚愕しました。本当にそうだと思います。ロータリーは野生株の根絶と言っていますが、ポリオ患者がすべて世界からいなくなった時がポリオのない世界ではないかと。ロータリーはいろいろな活動をしています。もしかしたら、野生株が根絶できたら、最優先事項でなくなるかもしれません。しかし、私はポリオ患者の最後の一人が世界からいなくなるまで、ポリオの会に賛同して一緒に活動させていただければと思っています。

嶋村：本当に崇高な人類愛を感じます。石川さん。ポリオ根絶への思いをお話しいただけますか？

4. ポリオ根絶への思いとこれからの展開

石川：今回、あらかわ遊園にポリオの会の方々に来ていただき、ポリオの会の活動をメインステージでお話しいただきました。その際、ご参加いただきました荒川保健所長らに、ポリオの患者がいることを認識していただきました。荒川保健所と一緒に荒川区内で何かできないかというきっかけになりました。私個人としては、「あらかわ遊園世界ポリオデー2580」が大成功だったこともあり、地域に根付くようなポリオ根絶へ向けての活動ができるようにしたいです。身の回りから地域を活性化することの一つとなるように取り入れていきたいです。

嶋村：ロータリーの活動が地域を動かす、何か新しい「Take action」の可能性があるということですね。

石川：ロータリーがポリオ根絶に取り組んでいることを役所の方々に認識していただいたことで、一緒に地域に向けて何かをするということは、公共イメージの向上にもつながるのではないかと思います。

嶋村：私は、10月23日、沖縄分区各クラブの世界ポリオデー2580に参加しました。沖縄本島を縦断し、その後、石垣に行き、沖縄分区のみなさんと一緒に募金活動しました。4つの高校のインターアクトクラブ、ボランティア部とも一緒しました。彼ら彼女らは事前にポリオ根絶の勉強し、募金活動をしました。「世のために手伝う気持ちが湧いてきました」という感想をいただきました。このことは、青少年の育成の一助になりました。次年度もRIはポリオ根絶を推進することを考えています。みなさんには自らのクラブの活性化とともに、石川さんがお話しされたとおり地域社会、さらに私たちの未来を担う青少年とジョイントすることも考えてほしいです。来年1月、インドでNIDが開催されるようです。柳さん、教えていただけますか？

柳：来年、久しぶりに日本からインドへチームを組んでポリオのワクチン投与活動を行う予定です。おそらく、1月中旬以降でしょうか？ 金曜日の朝、出発し、夕方、現地着。翌日土曜日、インドの子どもたち

チーム嶋村 ガバナー月信

ちと一緒にウォークラリーを行いポリオのワクチン投与活動を周知。日曜日の朝、ワクチン投与活動をします。例年通りであれば、保健所に集合し、3人、4人でチームを組んで各地に散らばりワクチン投与となります。午後、ホテルに戻ります。夜の航空便に乗り、月曜日の朝、日本に到着となります。ただし、インドはなかなか日程が決まりません。おそらく11月中には決まると思います。決まりましたら、ツアーを募りたいです。

嶋村：ありがとうございます。当地区も柳さんと連携し、プロデュースをしていただき、地区国際奉仕部門でインド NID ツアーを初めて企画しようと考えています。石川さんも柳さんもロータリーのきっかけの一つがインドの NID でした。各クラブがさまざまな形で新しい会員にインドの NID があることを伝えて、クラブの活性化につなげていただきたいです。本日はポリオ根絶、世界ポリオデーに大活躍されている柳さん、石川さんにご参加いただきました。ポリオ根絶をふり返り、世界平和へ邁進していただきたいです。

入会者情報 ～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

1. 情報収集の時期

2022年10月16日から11月15日まで（なお、入会日は7月1日から11月11日まで）

2. 入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

24名

3. 入会者の年齢層（小数点第2位切捨て）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	0	8	10	5	0	1
割合	0%	33.3%	41.6%	20.8%	0%	4.0%

※最年少30歳、最年長73歳

4. 入会者の性別（小数点第2位切捨て）

	男性	女性
人数	23	1
割合	95.8%	4.1%

5. 職業

地方銀行、弁護士（3名）、情報サービス（2名）、社会保険労務士、システムコンサルタント、日用品・生花小売り、ITサービス、樹脂製品輸入配布、パッケージソフトウェア販売、医療機器販売及びレンタル、電気工事業、割烹飲食業、産業廃棄物汚泥収集運搬業、生命保険プランナー、運送業、精密機械製造、不動産鑑定士、スポーツクラブ・トレーニング施設、観光施設、不動産業、農業・林業（除・花卉）

6. 紹介者との関係

前任者より引継ぎ入会、町内会関係、取引先（5名）、青年会議所（3名）、他地区からの入会希望を地区が紹介、友人（7名）、別の所属している会の繋がり（3名）、創立会長のご子息、地元の後輩、法人会

7. クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）

東京神田（2名）、東京麹町（3名）、東京紀尾井町（2名）、東京一ツ橋（1名）、東京リバーサイド（2名）、東京東（2名）、東京葛飾東（1名）、東京臨海（東京臨海北斗ロータリー衛星クラブ：3名）、東京江戸川中央（1名）、東京福生（1名）、那覇（1名）、那覇南（5名）、以上12クラブから回答

8. 特記事項

- ・先月号と同じく、紹介者との関係として、「友人」と「取引先」が多くなりました。「友人」7名、「取引先」5名です。また、創立会長のご子息が入会されたクラブがありました。
- ・入会者のご職業として、「弁護士」が3名となりました。社会保険労務士を含めて「士業」（国家資格の専門職）とすると4名。
- ・他地区のクラブから当地区のクラブへの入会希望について当地区にてクラブをご紹介ということがありました。

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

3回	武内 次男 (東京ベイ) 水谷 文彦 (東京ベイ)	林 茂男 (東京ベイ)
2回	丸山 文人 (東京ベイ) 土屋 東明 (東京ベイ)	田中 保 (東京ベイ)
1回	藤本 豊大 (東京お茶の水)	森 達郎 (東京ベイ)

ポール・ハリス・フェロー

阿世賀 陽一 (東京新宿)	笠原 健太郎 (東京お茶の水)
石渡 秀雄 (東京ベイ)	

米山功労者・メジャードナー

38回	濱野 堅真 (東京)	
20回	杉浦 正和 (東京) 服部 支朗 (東京荒川)	田辺 信彦 (東京)
19回	若宮 正英 (東京王子)	
18回	上田 元彦 (東京)	
15回	寺 紘一 (東京荒川)	
13回	林 克昌 (東京)	鈴木 義雄 (東京東江戸川)
11回	伊藤 隆 (東京江北)	
10回	小池 孝 (東京)	

米山功労者・マルチプル

9回	森田 富治郎 (東京)	松村 博文 (東京秋川)
8回	村本 久夫 (東京)	
7回	蒲野 宏之 (東京) 三澤 建美 (東京武蔵野)	近藤 昌之 (東京江戸川中央)
6回	荒井 知久 (東京江戸川) 町山 芳夫 (東京葛飾)	森田 知行 (東京江戸川)
5回	諸戸 精孝 (東京) 大谷 昌義 (東京新宿) 澤田 廣 (東京板橋) 関口 眞司 (東京江戸川) 町田 武久 (東京葛飾東) 大濱 達也 (石垣)	馬城 文雄 (東京) 牧野 光男 (東京浅草) 畠山 信弘 (東京江北) 南波 義弘 (東京葛飾) 法理 規夫 (東京秋川)
4回	浅沼 弘一 (東京板橋) 富永 新三郎 (東京リバーサイド) 吉田 正行 (東京江北) 大浜 勇人 (石垣)	小根澤 美和 (東京リバーサイド) 戸塚 誠一郎 (東京江北) 神谷 恭 (東京葛飾東)
3回	上西 栄太郎 (東京) 多田 幸雄 (東京)	田邊 昌徳 (東京) 中山 直幹 (東京江戸川)

	張替 俊光 (東京江北)	入澤 昭彦 (東京臨海)
2回	堀田 幸夫 (東京) 内田 力 (東京練馬中央) 田原 績 (東京浅草) 星亀 賢一 (東京板橋) 大森 一光 (東京荒川) 笠島 伸介 (東京リバーサイド) 高橋 史郎 (東京江北) 伊勢亀 由喜子 (東京臨海東) 川崎 智之 (東京葛飾中央)	山本 清博 (東京) 太田 泉 (東京浅草) 渡邊 敏充 (東京板橋) 井上 道太郎 (東京板橋) 本郷 滋 (東京本郷) 鈴木 又右衛門 (東京江北) 井上 晴貴 (東京臨海) 石井 敏子 (東京臨海東) 数野 国明 (東京青梅)

米山功労者

黒田 康裕 (東京)	高橋 雅美 (東京練馬中央)
桜井 雅英 (東京練馬中央)	齊藤 浩一 (東京浅草)
坂口 悦雄 (東京板橋)	佐藤 照美 (東京荒川)
斎藤 和則 (東京荒川)	高橋 秀治 (東京リバーサイド)
鈴木 貢 (東京葛飾東)	大澤 一隆 (東京江戸川中央)
山田 憲裕 (東京江戸川中央)	今西 勇 (東京臨海東)
田中 洋一郎 (東京青梅)	持田 禎宏 (東京青梅)
中島 慶貴 (東京青梅)	

10月31日分まで 敬称略、順不同

編集： 国際ロータリー第2580地区 ガバナー月信編集委員会
ガバナー月信へのお問い合わせ/コメント： info@motoffice.jp

チーム嶋村 ガバナー月信